



FAX、DM、メールを簡単に送信できるサービス
「NEXLINK」のWebTOPページ



(左より) FinTech推進室 吉田 浩美 様
FinTech推進室 出口 勇迅 様
FinTech推進室 室長 内藤 孝幸 様

会社概要

- 本社所在地:〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル
- 従業員数:239名(2017年10月1日現在)
- 事業内容:NEXLINK、FNX—斉同報サービス、医薬情報おまとめ便サービス、店舗matic、インサイドセールス、本人確認・発送追跡サービス等の情報通信提供サービス事業
- URL:<http://www.nexway.co.jp/>

増え、なかなか集中できず、業務効率が落ちると思うことがあったようです。しかし、テレワークを活用するようになり、集中できる環境下で企画書、プレスリリース等の作成を行うと、半分程度の時間で対応できることもあり、生産性は確実に上がりました。また、メールに比べて要件だけを伝えることができるチャットを連絡ツールとして活用し、業務効率を上げることができました。

モデル実証を終えて

新たな視点でのトライアルは成功
課題については解決策を模索

モデル実証事業に参加して感じたことは、当社が比較的柔軟に導入できているということ。柔軟さは、テレワークをうまく機能させるために必要な条件だと考えています。2年前にクラウド管理システム^{*1}を導入した際も、安全性について議論はありましたが、実態を確

認した上で採否を決定するという柔軟な判断が無ければ、今日の環境を構築できませんでした。また、今回、活用が難しい部署でのトライアル、OJTでの活用と新たな視点でトライアルができ、成果が出たことは収穫でした。しかし、これからさらに解決していく課題も見えてきました。社員間のコミュニケーションは統一のチャットサービスを活用していますが、お客様とのコミュニケーションではツールが統一されておらず、各部署で選定したツールを活用している状況です。当社だけの都合で変更することはできませんが、統一ができると業務効率が上がりますので、方法を模索しています。また、セキュリティ面から社外での書類の出力を禁止していますが、不便だという声もありますのでこちらも検討中です。このようにテレワークの導入から2年経ちますが、課題はまだあります。少しずつ使いやすい形に変えてきましたが一筋縄ではいきません。これらを解決できる方法を考えながら、時代に相応しい、社員が活き活きと働ける制度に上げていきたいです。

自社流テレワークを改善し、さらに有効活用

解決ポイント

活用が進まない部署での有効性を証明
OJTへの活用等、テレワークの有用性が拡大

2年前から自社流で始めた
テレワークの改善点を探る

当社は、FAX通信サービスを提供する部隊として、株式会社リクルートの事業部からスタートし、2004年10月に分社独立しました。多地点・多カ所へ一斉送信を行う機能から新サービスを開発。様々な企業の「受発注の管理」「社内の情報共有」「多店舗間の業務連絡」といったインターネットコミュニケーションに利用されてきました。メディアの多様化とインターネットの発達に伴い、FAXに加えメール送信・ダイレクトメール・テレマーケティングといった多様な手段を取り入れ、企業の「販売促進」「営業代行」「顧客育成」を目的としたエクスターナルコミュニケーションの企業ニーズにも対応しています。分社独立してから10年以上が経ち、結婚・出産する社員が増え、育児をしながら働ける環境作りの必要性が出てきました。そこで、2年前からテレワークをトライアル導入しましたが、元々コアタイムの無いフレックスタイム制を導入していたので、スムーズにテレワークが受け入れられました。ただ、自社流で導入してきたテレワーク制度でしたので、導入企業の事例や情報を得て、改善したいという思いからモデル実証事業に参加しました。課題は、対面のコミュニケーションが大切な部署でテレワークを導入した場合、生産性を落とさずスムーズに導入できるかということです。そこで、営業部署でのテレワークのトライアルを行うことにしました。

活用が難しい部署でのトライアル
OJTにも有効活用

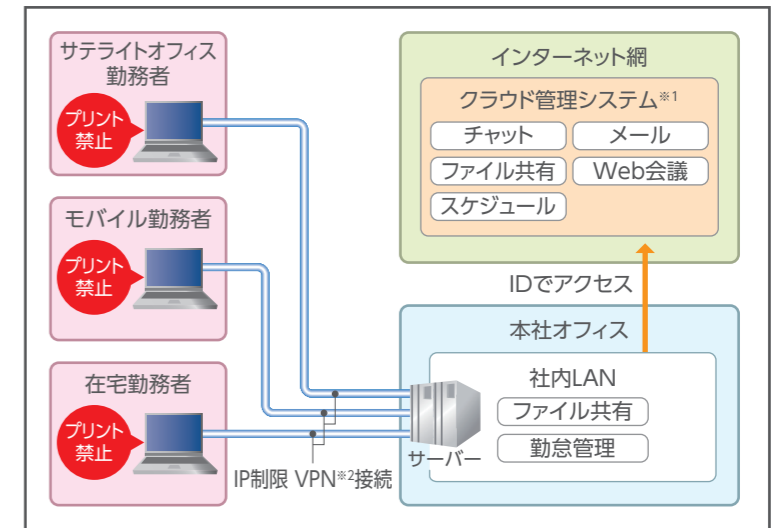
対象となったFinTech推進室では、営業経験の豊富な吉田と、配属されて間もない出口がOJTでテレワークをトライアルしました。お客様への初回訪問は、普段通り一緒に出向き、基本情報を共有し、その後は、出口が一人で営業を行い、在宅勤務の吉田に定例でサマリーを共有し、メールとチャットで報告・相談をする形です。通常本人の表情や反応を見ながら指示・アドバイスを行うOJTをテレワークで行うことに不安もあったようですが、自宅で業務を行いながら相談への回答や指示等、特に問題なく実施できました。重要な話は対面した際に行いました。また、サテライトオフィスも活用しましたが、企画書を仕上げる等、集中したい業務の時には便利ですが、頻りに電話を取る営業では、その都度離席しなくてはならないため不便でした。このように、トライアルを通じて、業務内容に適した場所を選択して働くことも重要だと実感しました。

テレワークが浸透している社員は
上手に活用し、生産性が向上

医薬情報事業部の新井や事業統括室の佐野は、企画書やプレスリリースの作成等、一人で行う業務もあり、オフィスにいと目の前の仕事以外にも対応することが



(左より) サービス本部長 事業統括室長 松森 正彦 様
事務統括室 販促企画グループリーダー 兼 広報担当 佐野 有加 様
医薬情報事業部 新井 美月 様
医薬情報事業部 グループマネジャー 新井 宏基 様



経営課題

- 育児や介護をする社員が能力を発揮できる環境作り
- 自社流で導入したテレワークの改善点を探る

導入概要

- 既存のクラウド管理システム^{*1}やノートパソコンを継続活用したテレワーク環境を構築
- 既に顧客管理を扱う部署以外、全社員に適用していたが、活用が進まない部署を対象にトライアル強化
- サテライトオフィス勤務を新たに導入

導入効果

- 活用が進まない部署において、生産性を維持できることを実証
- 活用が進む部署では、業務効率が向上
- 育児との両立がしやすく、時間に余裕ができた

モデル実証企業
からのアドバイス



- ◆ 柔軟な判断で、まずはトライアル導入
従来の就業規則や社内規定がテレワークに合わないことも多いと思いますが、クラウドサービスも高機能化しています。セキュリティ面も強化されています。少しずつトライアルしていくことをお勧めします。
- ◆ 社員が楽しく働ける環境作り
テレワークは働き方改革の一環です。企業にとって短時間勤務や週休三日等、取り組むことは多岐に渡ります。テレワークを特別視せず、社員が楽しく働ける環境作りとして捉えていくことが大切です。

■クラウドとは：インターネット上にデータを保存する使い方、サービスのこと。
*1 クラウド管理システム：クラウドで提供される業務管理サービスやチャットサービスなどの総称。
*2 VPN：仮想的な専用線(Virtual Private Network)の略。共有ネットワーク上にプライベートネットワークを構築すること、またはその技術。